



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602
1月の休館日：1(木祝)～3(土)・5(月)・13(火)・19(月)・26(月)

1月18日(日) 14:00～
ひこね市文化プラザ人形劇教室
「人形劇発表会」
☆文化プラザ人形劇教室で、自分たちが作ったオリジナル人形を使って、しかもオリジナル作品の発表会を開催します。はてさて何が飛び出すやら。
【入場無料】

1月25日(日) 14:00～
オペラ物知り講座 in ひこねvol.2 -椿姫-
☆観客席から見ただけではわからないオペラの成り立ちや秘密を、生の演奏とさまざまなエピソードや解説を織りまぜながらハイライトで楽しむ講座です。
【自由】 1,500円(当日2,000円) 【好評発売中】

2月1日(日) 14:00～
財団設立30周年記念・井伊直弼と開国150年祭記念
「いい歌、いい舞、いい話 彦根今昔物語」
☆彦根の歴史や文化をテーマに物語を構成・演出！市民文化団体の出演による彦根文化の祭典!!
【自由】 500円 【好評発売中】

2月11日(水祝) 15:00～
エコメモリアル・チェンバー
オーケストラ演奏会
☆戸澤哲夫さん(コンサートマスター)
【自由】 大人2,000円 18歳以下1,000円(当日:各500円増)
【好評発売中】

2月14日(土) 13:45～
財団設立30周年記念・井伊直弼と開国150年祭記念
特別講座
「地方が元気になるためには～地域の文化力～」
講師 田原総一郎さん(評論家・ジャーナリスト)
東国原英夫さん(宮崎県知事)
【自由】 2,000円(当日2,500円)
※前売券が完売の場合、当日券はありません。
【1月12日(月祝)一般発売開始】

2月28日(土) 15:00～
及川浩治トリオ“Bee”(びい)コンサート
☆及川浩治さん(ピアノ)、石田泰尚さん(ヴァイオリン)、石川祐支さん(チェロ)による究極のトリオパフォーマンスをご堪能ください!
【指定】 3,000円 【好評発売中】

マーク：託児サービスがあります。(要予約)
※公演日の1週間前までにご予約ください。
マーク：公演終了後、彦根駅行き・南彦根駅行きの臨時バスの便があります。(有料)

チケット・入会のお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520
1月の休館日はありません。

開館時間 8:30～17:00 (入館は16:30まで)

1月1日(木祝)～2月3日(火)
「吉祥のデザインー鶴と亀ー」
吉祥の文様の中から鶴と亀で彩られた作品に焦点をあて、新年を寿ぎます。
◀能装束 袴袴衣



ギャラリートーク
「吉祥のデザインー鶴と亀ー」
1月10日(土) 14:00～15:00
解説：本館学芸員 高木文恵
※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂にお集まりください。
観覧料が必要です

幕末の大老、井伊直弼(1815～1860)は、国政を担う政治家として知られる一方、茶の湯や国学、禅、居合などにひたむきに取り組む、文化人としての面をあわせ持っていました。
このコーナーでは、直弼ゆかりのさまざまな作品を集め、その人となりを紹介いたします。

1月1日(木祝)～2月2日(月)
茶漆塗松笠棗
片桐石州好みの茶器に直弼も自らの花押を入れ、茶会で用いました。



市民体育センター ☎23-2293 FAX 23-2294
1月の休館日：1(木祝)～3(土)・6(火)・13(火)・20(火)・27(火)

18日(日) 10:00～12:00
フレッシュスポーツデー
ニュースポーツの部
予定種目 ダブルダッチ、ファミリーバドミントン、ビーチボール、ドッチビー ほか
会場 市民体育センター・第2競技場
参加費 小学生以上 1人 200円(当日、受付でお支払いください。)
※運動のできる服装と、体育館シューズが必要です。

8日(日) 13:00～
フェスタ・エアロビクス“スペシャル”
会場 市民体育センター
講師 AFAA JAPAN コンサルタント 金子智恵
AFAA JAPAN コンサルタント 小室演子
参加費 1人500円(中学生以上)
【1月18日(日)発売開始】
チケット販売所 市民体育センター
※託児サービスがあります。3月1日(日)までに電話で申し込んでください。ただし、定員になり次第締め切ります。

▶八仙祝寿図



金箔を背景に極彩色の絵の具が映える屏風。仙人たちが寿老人を迎えて祝う「八仙祝寿」という吉祥の図で、中国ではよく知られた画題です。江戸時代の早い時期に狩野永納(1631～1697)によって描かれました。狩野派は、画題、画風ともに中国画の強い影響を受けて成立した流派です。この画の中心となるのは寿老人。手に拄子を持ち、脇息に肘をついてゆったりと座っています。南極老人星の化身、杖に吊された軸には、人の寿命が記されていると言われます。中国が吉祥の寿老人は、日本では民間信仰の七福神の1人として認識されています。が、やはり七福神のメンバーである福祿寿と同一神とも考えられています。寿老人の手前には、個性豊かな8人の仙人、八仙がそれぞれ特徴のある格好で集っています。

八仙がだれか説によって異なりますが、この画では、向かって右から、白い口バを従える張果老、牡丹を持つ好で集っています。八仙がだれか説によって異なりますが、この画では、向かって右から、白い口バを従える張果老、牡丹を持つ好で集っています。八仙がだれか説によって異なりますが、この画では、向かって右から、白い口バを従える張果老、牡丹を持つ好で集っています。

熱心な信仰と豊かな発想力で生み出された吉祥の図やデザインの数々。その意味に想いをはせながら新年を寿ぎたいものです。(彦根城博物館学芸員 高木文恵)

吉祥の画く新年に寄せて

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ



韓湘子、蝦蟇とたわむれる蝦蟇仙人、鉄杖をついて瓢箪を手にする李鉄拐、宝剣を背にする呂洞賓、両手を組む鍾離権、陰陽板を持つ曹国舅、箆を持つ何仙姑の8人です。

てなにより、仙人の存在自体が吉祥をあらわしているのです。

そして、八仙の中央には、一羽の鶴の姿があります。この鶴は、すぐそばの呂洞賓に関係するようにも見えますが、寿老人の乗り物の役割でやって来たものと考えられます。

中国では長い間、現世を肯定し、理想や幸福を現実の世界に求める考え方が基本にありました。現世の楽しみを享受するには、長命である必要があるため、幸福の筆頭を飾るのが長寿と考えられてきました。

なぜなら、本家中国の八仙祝寿は、八仙祝寿とあって、鶴に乗った寿老人を八仙が仰ぎ見る構図で描かれる場合が多いからです。寿命をつかさどる寿老人は、長寿を象徴する鶴と分かちがたく結びついて考えられています。

そのための、寿命をつかさどる神である寿老人を尊崇したのはもちろんのこと、仙薬を飲んで不老長生となった仙人にも強いあこがれを抱き、自ら仙人となるべく厳しい修行に励む者も出現しました。仙人もまた、長寿を象徴する吉祥の存在と捉えられ、吉祥の画題として描き継がれていったのです。

実は、この屏風には、寿老人と鶴以外にも多くの吉祥が散りばめられています。寿老人の背後には、永遠を象徴する大きな松が描かれ、金で彩られた雲は、喜ばしい兆しを示す瑞雲と理解できます。仙人が手にしている牡丹は富貴をあらわし、箆に盛られた豊芝は長生の薬効があるとされます。そして

そのための、寿命をつかさどる神である寿老人を尊崇したのはもちろんのこと、仙薬を飲んで不老長生となった仙人にも強いあこがれを抱き、自ら仙人となるべく厳しい修行に励む者も出現しました。仙人もまた、長寿を象徴する吉祥の存在と捉えられ、吉祥の画題として描き継がれていったのです。